

# 令和 2 年 度 千早赤阪村立学校 評価報告書

学校名（ 赤阪小学校 ）

校長名（ 當麻 裕彦 ）

## 1. 教育目標

「一人ひとりが輝く元気な学校 ふるさと 赤阪小学校」

「強く」・「正しく」・「朗らかに」

元気な子 考える子 やさしい子 根気よく取り組む子 手伝う子 工夫して学ぶ子

- ① 「ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり
- ② 新学習指導要領に対応した学力向上の取り組み
- ③ 地域学校協働本部活動の推進

## 2. 経営方針

### ① 「ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり

○すべての子供が学びやすい赤阪小学校をめざして。

ユニバーサルデザイン【UD】に基づく「授業づくり」と「学校環境整備」  
そして「学校体制・組織づくり」

○迅速かつ確かな情報共有で学校の強みを。チームあかさか。

○「学級づくり」「授業づくり」スタンダードの活用や児童についての「気づき」  
を大切にし、一人ひとりの児童の教育的ニーズに応えられる学校体制の構築。

## ②新学習指導要領に対応した学力向上の取り組み

### ○つけたい力の明確化

すべての授業で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づくつけたい力を明確にして授業改善に取り組む。

### ○新たに取り組むことや重視することに応じた授業改善

・「ICT・プログラミング教育」「外国語教育と異文化理解」「キャリア教育」「道徳教育」「特別支援教育」「言語能力の育成」「理数教育」「伝統や文化に関する教育」「主権者教育」「消費者教育」の学習指導要領改訂で示された新たに取り組むことや重視することに対応した授業改善を行う。

### ○自学自習力をつける

自主学习ノートの学校としての導入と活用で自学自習力の定着と質の向上をめざし、普段のノート指導も充実させる。

## ③地域学校協働本部活動の推進

○学校と地域が協働して、学校教育における課題に取り組む体制づくりを整え、地域の資源を本校教育に生かす取り組みを進める。

○郷土である大阪府唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りをもつ子供たちを育むために、郷土学習、歴史学習、金剛山や棚田に親しむなど郷土にちなんだ学習を積極的に行う。

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ともに学びともに育つ」支援教育の視点を踏まえたユニバーサルデザインに基づく授業づくりの工夫</li> <li>2. 新学習指導要領に対応した学力の3観点に基づくつきたい力を明確にした授業改善及び新たに取り組むことや重視することに応じた授業改善</li> <li>3. 大阪府のスクールエンパワーメント事業校及び算数の複数教員加配校としての取り組みによる教育力の充実</li> </ol>
D	具体的な取り組み内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ・全教職員が「ユニバーサルデザイン」の学校づくりという重点目標について日頃から常に意識化し、毎日の教育活動の中で実践する。 ・赤阪スタンダードや学習用具のきまりを守って学習に取り組む姿勢を身につける指導を全学級で実施する。</li> <li>2. 研究主題「主体的で多様な深い学びの追究」 ・「書く」領域に重点を置く、言語活動の充実 ・ピカイチノートの取り組み ノート指導の充実 ・校内研修 ミニ研修の充実</li> <li>3. ・複数指導のチームでの打合せを行い、授業改善に取り組む ・評価を生かした授業改善を行う。 ・学力向上の基礎基本の取り組み「計算タイム」の実施</li> </ol>
C	自己評価／成果と課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教室環境の整備など共通して取り組みを進めることができた。授業のルールなどを明確にした「赤阪スタンダード」の共有を進めた。研究授業を実施した研修や授業実践の交流研修で、教員どうし指導観の共有を行った。新型コロナウイルス感染症対策で変更点が多かったこと、また、今年度は教職員の入れ替わりが多かったこともあり、確認が漏れていると統一できていなかったりしたこともあった。</li> <li>2. 国語科の授業研究・実践交流、相互授業参観、道徳授業の実践・参観の重点週間の設定などに取り組んだ。「ちょこっと研修」の実施（朝の打合せ後に短時間の外国語指導のワークや授業見学の感想交流など）、児童のノートのよい事例の掲示なども行うことができた。</li> <li>3. 府の教員加配事業を活用し、全学年の算数科でティームティーチングや習熟度別の分割授業を進めた。活用力の定着を見とる学校独自テストを作成して年2回実施した。「計算タイム」は短縮校時の日を除く毎週金曜日の朝に実施。全学年で継続的な取り組みを進めることができた。</li> </ol>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の完全実施の初年度に、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け授業改善の取り組みや研修が本来の形で進められず、カリキュラムの変更を余儀なくされた部分については、次年度どのようにしていくのか、今後の感染状況を注視しながら計画していく。</li> <li>・新しい体制でも、「ともに学びともに育つ」支援教育の視点を踏まえたユニバーサルデザインに基づく授業づくりを目指していく。</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人ひとりが輝く学校をめざして 人権感覚を高める</li> <li>2. 郷土愛の育成 郷土である大阪府唯一の村に愛着と誇りをもつ子供の育成</li> <li>3. 「外国語教育」の充実によるコミュニケーション力の向上と異文化理解の取り組みの推進</li> </ol>
D	具体的な取り組み内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ・校内人権研修や人権に関わる研修の伝達等を日常的に行う。 ・平素から、みんなで児童の話題を共有し、チームとして全児童に関わる意識をもつ。</li> <li>2. ・「ふるさと赤阪小学校」というキャッチフレーズを掲示し、自然豊かな村の良さを子供たちに伝え、郷土愛を育む取り組みを進める。</li> <li>3. ・「外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成のため、担任主導による授業、必然性のある場面、1時間の活動計画の掲示【UD】等これまで積み重ねてきた外国語の授業を充実する。 ・「外国語」の授業力向上と維持のための研究授業を2回実施し、大学の教授に指導助言をいただく。</li> </ol>
C	自己評価／成果と課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ・校内では、日ごろより児童一人ひとりについて全教職員で情報を共有し、理解を進めてきた。東部（太子町・河南町・千早赤阪村）地区や南河内地区の人権教育研修にも参加し、本校は、「多文化共生と在日外国人教育」の分科会で取り組みの実践発表も行った。</li> <li>2. ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、校外学習の機会が少なくなったが、遠足の行先を村内に変えたり、総合的な学習の時間で防災の視点から本村の状況や取り組みを調べたり、社会科で歴史や文化を学んだりする機会をもったりすることで郷土教育を進めた。</li> <li>3. ・本村に新しく来た教員も含め全担任が主となって、ALT（外国語指導助手）とともに外国語科・外国語活動の授業を進めることができた。 ・「外国語教育」については、5・6年が「外国語科」に教科化されて評価規準や方法も変わった。村の研修として2回研究授業を行い、いずれも講師として招聘した外国語教育専門の大学教授から指導助言を受けた。</li> </ol>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の中で、人権教育に関わる研究授業を実施する。</li> <li>・金剛山ロープウェイの運行停止が続く状況もあり全校での金剛登山行事の復活は難しいが、村内の他の自然、名所旧跡に関する取り組みを進めていく。</li> <li>・教科としての外国語科の指導の工夫や評価のあり方について、また、高学年の外国語科につながる1～4年の外国語活動の授業について、さらに研修を進めていきたい。</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進		
P	重点目標	1. 「いじめ」の早期発見 早期対応 防止 2. ユニバーサルデザインに基づく安心してすごせる環境整備
D	具体的な取り組み内容	1. ・定期的な「こころとからだ、くらしのアンケート」の実施 ・いじめや不登校に関する校内会議の開催 ・人権教育・道徳教育の推進 ・安心して過ごせる学級集団づくり  2. ・黒板まわりの掲示物の工夫 ・ろうかや階段のセンターライン、サインの整備 ・ユニバーサルデザインの考えも取り入れた安全点検の実施
C	自己評価／成果と課題	1. ・毎月アンケートを実施し、その内容から必要な確認を行った。ふだんから、朝の打合せで、細かな情報共有を行い、毎月の職員会議の中でも時間を確保して、児童に関する情報を伝え合ってきた。 ・いじめや不登校に関する校内会議は、S S W（スクールソーシャルワーカー）も入って、月1回開催してきた。PDCAサイクルを意識し、現状、対応、短期的・中期的な見通し、各機関との連携、学校側の支援体制などについて話し合った。 ・年間計画に沿って人権教育・道徳教育を行ったが、教材の選択、実施時期について改善が必要。  2. ・各教室の黒板のまわりをすっきりさせて児童が学習に集中できる環境を整えた。 ・ろうかや階段にあるセンターラインを守る啓発やポスターの掲示をしていた。 ・今年からこども園の園児が運動場や遊具を使用することもあり、校内のちょっとしたフックの出っ張りやつまづきやすい段のあるところなど、注意深くUDの観点からの安全点検を心がけた。
A	次年度に向けて	・児童の安全や安心に関わり、指導や配慮、事後のケアが必要な予想外の出来事があった際に、関係する教職員でより迅速に対応会議を行い、必要な保護者連携もスムーズに行えるようにしていく。 ・安全点検の中で、危険箇所について、児童の気づきも生かせるようにしていく。

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		IV 学校及び教職員の資質の向上
P	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域学校協働活動の推進 地域と学校が協働して学校教育における課題に取り組む体制づくり</li> <li>2. 信頼される学校をめざして組織的対応力や確実な情報共有ができる「チームあかさか」の構築</li> <li>3. 基本的な指導観・児童観の共有</li> </ol>
D	具体的な取り組み内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ・中長期的な視点で地域の方の力を本校教育に生かすことや参画していただけるような体制作りについての計画づくり。 ・「子ども安全見守り隊」「民生児童委員」「読み聞かせ」等の各ボランティアなど学校に関わる方々と多くつながる。</li> <li>2. ・全教職員が児童に関わる姿勢や迅速な報告・連絡・相談による情報共有ができるような組織体制づくり。</li> <li>3. ・本校は複数で同じ学級を指導している場面も多くある。児童観、指導観の共有ができるような打合せの日常化でチームでの指導の効果を上げる。</li> </ol>
C	自己評価／成果と課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「子ども育みボランティア」の募集を初めて行い、これまでからお世話になっている読み聞かせボランティアの方にご登録いただいた。保護者の中から新たにご登録くださったケースもあった。クラブ活動への支援を想定して、まずは今年度、クラブ活動見学ツアーを実施した。緊急事態宣言下で中止とした回もある。</li> <li>2. 児童に関する情報は、職員朝礼などを利用してこまめな情報共有を心がけた。行事や校務に関することも担当者から全員に知らせるように心がけた。「チームあかさか」は合い言葉として意識するように管理職からも情報発信をし、意識はできていた。ただ、不十分で対応が後手になることもあった。</li> </ol> <p>・ 前担任や前担当者ができる引継ぎは大切にしてきた。児童に関するファイルも整理し引継ぎ資料として蓄積できるしくみも作っている。校務支援システムも活用したより一層の情報共有を今後の課題としたい。</p>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症対策を考慮した新しい生活様式による教育活動に合わせた範囲で、ボランティアの方々のご支援をいただきたい。ご登録いただけるボランティアの方を募っていきたい。</li> <li>・ 国・府が進めるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入を視野に入れて、村教育委員会と連携しながら、地域学校協働本部の組織づくりを進めていく。</li> </ul>

V 図書館教育の充実		
P	重点目標	図書館司書を活用した図書館教育の一層の充実と推進
	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校図書館司書の活用</li> <li>・ 朝読書の日常的取り組み</li> <li>・ 図書室の整備</li> <li>・ 図書予算の増額による図書選定の充実</li> <li>・ 図書委員会の活動による読書啓発</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度初めて府の事業により本村に学校図書館司書が配置され、3校兼務ではあるが、専門的な見地から、図書室の環境整備（配架の工夫）に努め、図書資料を活用した調べ物の支援を行うレファレンスを充実することができた。</li> <li>・ くすのきホール図書室・村外の市立図書館と緊密に連携して情報を収集し、国語科や総合的な学習の時間の授業で学級の児童全員が同時に図書資料を使って調べ学習ができる機会が格段に増えた。</li> <li>・ 読み聞かせや図書紹介により、読書に親しむ機会、読書に親しむ子どもも増えた。</li> <li>・ 図書委員会の児童の活動を支援し、特設会場での怪談絵本の読み聞かせや「本の福袋」プレゼント企画など、児童が楽しめる様々な企画を実現した。「本の帯創作コンクール」への応募も行った（入賞者あり）。</li> <li>・ 通信「図書だより」も毎月発行した。</li> <li>・ 朝読書の習慣は児童に定着している。</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が図書資料を活用して教科での調べ学習を進められるよう、引き続き、担任と学校図書館司書とで連携して、授業の機会を積極的に取り入れていく。十分な量の資料を学級分揃えられるよう、くすのきホール図書室、他市等の図書館との連携を進めていく。</li> </ul>

## 4. 教育自己評価

【教職員による評価】教職員アンケートの集計結果より

	項 目	肯定的 評価	否定的 評価
1	この学校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている。	100%	0%
2	各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話しあっている。	89%	11%
3	この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある。	89%	11%
4	様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。	89%	11%
5	教育活動全般にわたって評価を行い、次年度の計画に生かしている。	100%	0%
6	いじめ・不登校などの問題がおきた時、組織的に対応できる体制が整っている。	100%	0%
7	新学習指導要領実施、新しい教育課題への対応について積極的に研修を実施している。	100%	0%
8	各教科の指導内容について、基礎・基本を明確にし、教材、教具の工夫を行っている。	100%	0%
9	各教科等の授業において、ICT 機器の特性を生かして活用している。	89%	11%
10	教科横断的で総合的な学習に取り組んでいる。	100%	0%
11	思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。	100%	0%
12	学校行事について児童にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	89%	11%
13	課題別・習熟度別学習やTTによる学習指導等、個に応じた学習形態の工夫・改善を行っている。	88%	13%
14	学習が遅れがちな児童への対策を、全校的課題として取り組んでいる。	75%	25%
15	学習意欲の高い児童に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている。	63%	38%
16	学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。	100%	0%
17	校長は、教職員一人ひとりが意欲的に学校経営に参画できるようにしている。	100%	0%
18	児童のキャリア教育に学校全体で取り組んでいる。	88%	13%
19	人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。	100%	0%
20	障害者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している	100%	0%
21	体罰やハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。	100%	0%
22	この学校では、各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	100%	0%
23	職員会議をはじめ各種会議が、学校運営に生かされている。	88%	13%
24	日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています。	100%	0%
25	事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。	100%	0%
26	施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。	89%	11%
27	子どもたちの安全教育・安全管理を学校として計画的に行っている。	100%	0%
28	校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。	83%	17%
29	研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。	71%	29%
30	学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	89%	11%
31	個人情報保護の観点から、児童の個人情報に関する管理システムが確立している。	100%	0%
32	中学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。	88%	13%
33	生活指導において、家庭や関係諸機関との緊密な連携ができています。	100%	0%



【外部アンケート等】

保護者アンケートの集計結果より

	項 目	肯定的 評価	否定的 評価
1	子供は、楽しく学校に登校している。	97%	3%
2	学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている。	91%	9%
3	学校は、特色ある教育活動を行っている。	77%	23%
4	学校は保護者・地域の願いに応えている。	81%	19%
5	学校での子供の学習活動・様子について、配布物や学校からの連絡、ホームページ等で知ることができる。	100%	0%
6	学校は学習のつまずきを把握し、一人ひとりの子供に応じた指導や支援をしている。	93%	7%
7	学校は豊かな心を育むための学習や体験活動にとりくんでいる。	90%	10%
8	通知表「のびる子」は、子供の学力や達成度を知るようにできている。	86%	14%
9	学校では環境、国際理解、食育、福祉、プログラミング教育等の様々な教育課題について子供に学ばせている。	89%	11%
10	学校では子供の人権を尊重する教育活動が行われている。	80%	20%
11	学校は、子供に生命を尊重する心や社会のルールを守る態度を育てている。	86%	14%
12	学校では防災学習、交通安全、不審者対応などの防災、安全教育について子供に学ばせている。	98%	2%
13	学校では他学年とのたてわり活動(わんぱく班)を行い、友だちを大切に作る仲間作りに取り組んでいる。	95%	5%
14	学校は子供のたちの体力向上・運動についての関心を高める取り組みを行っている。	93%	7%
15	運動会、学習発表会、参観、懇談等の行事は参加しやすい。	93%	7%
16	PTAは積極的に活動している。	89%	11%
17	学校は感染防止対策に努め、工夫して教育活動を行っている。	97%	3%

【アンケート結果より】

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響を受け、「なかよし班活動」や地域の方の協力を得るような特色のある教育活動がしにくい状況が続きました。今年度設けた項目「学校での子供の学習活動・様子について、配布物や学校からの連絡、ホームページ等で知ることができる。」では肯定的評価が100%でした。各学年の学年だよりや毎日のホームページ更新をしてきたことを評価いただきうれしく思います。他の項目も概ね肯定的な評価をいただき、①「楽しく学校に登校している。」⑫「防災学習、交通安全、不審者対応などの防災、安全教育について子供に学ばせている。」⑰「学校は感染防止対策に努め、工夫して教育活動を行っている。」などは特に高い評価をいただきました。しかし、③「特色ある教育活動を行っている」④「保護者・地域の願いに応えている」⑩「子供の人権を尊重する教育活動が行われている。」という項目では、肯定的評価は8割前後にとどまっており、保護者や地域の皆様の願いを受け止め、それらを生かした特色ある学校づくりや人権教育のより一層の充実に努力する必要があると考えています。

## 5. 学校関係者評価

### 【学校評議員による評価】

#### 〔新型コロナ感染症対策に対して〕

感染症が治まらない中、学校行事の見直し、児童教職員への負担を考慮しつつ学校教育をすすめてもらいたい。

「新しい生活様式」をチャンスとらえ児童に相手を思いやる心情を育てていただきたい。

例年の行事の実施の可否や内容の見直し、検討を図ることが非常に重要なことである。何より児童の安全を第一に考えて慎重に進めてもらいたい。

年度当初は休校が続き、学校再開後も感染拡大防止対策に苦慮しながらの学校運営であったと思います。その中で必要な行事については感染症防止対策を徹底した上で行い、対策がとりにくい行事については中止にするなど適切な対応が図られていました。次年度も引き続き感染拡大防止対策の徹底にご配慮ねがいます。

#### 〔あいさつについて〕

毎朝、校長先生が校門の前に立ち、登校してくる児童に対してあいさつや声かけをされている、時には季節に合わせて仮装して出迎えるなど児童にエネルギーを与えていた。非常に良いことだと思う。これにより朝のあいさつが習慣づけられ、また、他の教職員に対しての模範ともなり、学校全体が活気づき、赤阪小学校がめざす子ども像「強く、正しく、朗らかに」につながっていると感ずる。

#### 〔登下校について〕

集団登校について大抵は班ごとにきちんとまとまって登校している中、時折、班がばらけて登校している状態が見受けられる。異学年のため年齢差から歩行速度の差異があったり、他の班の友達と話すため班から外れたりするなどいろいろな理由があるかと思います。学校でも引き続き集団登校の班を守るようにご指導ください。

#### 〔学校の教育内容について〕

授業時数の確保は大切であると思いますが、児童への学力の定着が促される授業改善を一層進めていただきたいです。

また、小規模校の良さを生かした一人ひとりを大切にしたいきめ細やかな教育を充実させてください。

#### 〔標準服について〕

現在学校指定の標準服は男女で異なっており、男子はズボンで女子はスカート、帽子の形もそれぞれ違うものとなっています。性的マイノリティーに対する配慮として変更する必要があるのではないか。時代の変化に即した検討を望みます。

#### 〔教職員について〕

今春の異動で教職員が大幅に入れ替わり、児童も新鮮な気持ちで学校生活を送ることができたことと推察する。毎年のクラス替えがない分、どうしても学校内の雰囲気マンネリ気味になりがちだと思うが、異動してきた先生たちが学校内にフレッシュな風を吹き込んでくれることを期待する。

教職員の方が土曜日や日曜日に学校に来ているのを散見します。正規の勤務時間で仕事が終われるよう、適正な業務の分担や効率化を図り、教職員の負担が少しでも軽減されるように望みます。

## 6. 第三者評価

第三者による評価は、今年度実施していない。